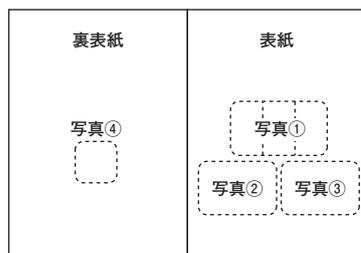


文部科学省シンボルマーク

文部科学省シンボルマークは「羅針盤」をモチーフとしています。教育、科学技術・学術、スポーツ、文化の振興を通じて、希望に満ちた未来を目指す、文部科学省の役割を表しています。上部の円は進むべき方向を象徴し、その使命を見失うことなく、誠意と熱意をもって任務に専心する姿勢を示しています。下部の円の中央から放射状に広がる直線は、社会に開かれた文部科学省の姿勢を表現しています。同時に、親しみやすい簡潔なデザインからは、人、地球など、様々なイメージへと自由に連想を広げることができます。

色彩は日本人に古来なじまれてきた青色を基調として、「瑠璃（るり）色」と「空色」を使用しました。「瑠璃色」は強い意志、品格と知性、「空色」は誠意と未来への広がりを意味しています。

このシンボルマークは、国民の皆様とのコミュニケーションを深めていくための取組の一環として、平成20年1月の新庁舎への移転を機会に制定されたものです。文部科学省は、このマークに込められた意味を忘れることなく、任務に取り組んでまいります。



写真①: IOC総会において2020年オリンピック・パラリンピック競技大会の東京開催決定を喜ぶ東京招致団（左）（右）、IOC総会において2020年オリンピック・パラリンピック競技大会の東京開催決定を発表するロゲIOC会長（当時）（中央）

〔写真提供：アフロ〕

写真②: 福島県双葉郡子供未来会議において「双葉郡の新しい学校」について元気に発表する双葉郡の小学生たち

〔写真提供：福島県双葉郡教育復興ビジョン推進協議会〕

写真③: 小学校の外国語活動の時間、外国語指導助手（ALT）に日本のおすすめの場所を紹介する児童（兵庫県神戸市）

〔写真提供：神戸市立小部東小学校〕

写真④: 富岡製糸場東繭倉庫（群馬県富岡市）

〔写真提供：群馬県〕